



平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年7月31日

上場会社名 京福電気鉄道株式会社
 コード番号 9049 URL <http://www.keifuku.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡本 光司
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長 (氏名) 長尾 拓昭
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月9日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 075-841-9385

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	2,915	2.1	329	4.3	322	5.0	212	2.7
29年3月期第1四半期	2,976	3.9	344	36.5	339	38.0	218	32.7

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 260百万円 (12.2%) 29年3月期第1四半期 231百万円 (24.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	10.69	
29年3月期第1四半期	10.99	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第1四半期	18,538	6,561	32.0	298.42
29年3月期	18,867	6,345	30.4	288.23

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 5,935百万円 29年3月期 5,733百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		2.00	2.00
30年3月期					
30年3月期(予想)		0.00		20.00	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成29年10月1日を効力発生日として普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施する予定であるため、平成30年3月期(予想)の1株当たり期末配当金については、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「-」として記載しております。株式併合を考慮しない場合の平成30年3月期(予想)の1株当たり期末配当金は2円となり、1株当たり年間配当金は2円となります。

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,600	4.6	380	41.8	360	43.9	260	35.1	13.07
通期	11,300	3.1	640	9.3	590	12.7	540	6.5	271.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成29年10月1日を効力発生日として普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施する予定であります。通期の連結業績予想における1株当たり当期純利益については、当該株式併合の影響を考慮しております。なお、株式併合考慮前に換算した通期の連結業績予想における1株当たり当期純利益は27円15銭となります。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	20,000,000 株	29年3月期	20,000,000 株
期末自己株式数	30年3月期1Q	109,469 株	29年3月期	109,316 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	19,890,633 株	29年3月期1Q	19,892,820 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等について)

業績予想については、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。
なお、業績予想に関する事項については3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善を背景とした堅調な設備投資と個人消費に支えられ、緩やかな回復基調で推移しました。

このような経済情勢のもとにおきまして、当社グループの経営ビジョンに掲げる「沿線深耕」の推進に向けた取組を推進しました。平成29年6月8日には、京都と台湾との交流人口拡大を図るとともに、魅力ある沿線観光スポットの海外情報発信を目指し、当社・江ノ島電鉄(株)・台湾の鉄道会社「高雄捷運股份有限公司(通称:高雄メトロ)」との三社観光連携協定を締結しました。

また、平成29年3月に当社線西院駅と阪急電鉄(株)京都線とのホームが直結され、これまでの撮影所前駅・嵐電天神川駅での他社線との結節に加え、嵐電のさらなる利便性向上に取り組むとともに、京都バス(株)においても、平成29年4月1日より、京都市交通局との連携によるICカードによる共通定期券への参画等、さらなる利用促進への取組を進めました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの営業収益は2,915百万円(前年同期比61百万円、2.1%減)となり、営業利益は329百万円(前年同期比14百万円、4.3%減)となりました。これに営業外収益および営業外費用を加減した経常利益は322百万円(前年同期比16百万円、5.0%減)となり、特別利益および法人税等を加減した親会社株主に帰属する四半期純利益は212百万円(前年同期比5百万円、2.7%減)となりました。

次に、セグメント別の状況をご報告いたします。

① 運輸業

鉄軌道事業におきましては、嵐山線では、高齢者や近年増加傾向にある外国人観光客への対応として、駅施設のバリアフリー化や多言語案内設備等への投資等を行うため、平成29年4月1日に普通旅客運賃と定期旅客運賃の運賃改定を実施したことに加え、当社西院駅と阪急電鉄(株)西院駅との結節改善による利便性の向上や、海外からのお客様のご利用も堅調に推移したこともあり、運輸収入は増収となりました。また、「沿線深耕」の取組につきましては、沿線寺院と連携し、普段では体験できないプレミアムな沿線巡り企画「～巡るたび新しい京都～沙羅双樹の鹿王院」を実施しました。さらに、高雄メトロとの観光連携では、沿線の飲食店や観光施設の割引券が付いたガイドブックの配布やラッピング電車の運行などを実施しました。鋼索線(叡山ケーブル・ロープウェイ)におきましても、ゴールデンウィークや週末毎の好天が続いたことにより、運輸収入は増収となりました。

バス運送事業におきましては、京都バス(株)では、平成29年4月より京都市交通局とのシームレス化による旅客の利便性向上と利用増に向けた新たな連携施策として、ICカードによる共通定期券への参画とICカードによる京都市バス・地下鉄との乗継割引サービスを開始いたしました。京福バス(株)では、北陸新幹線の福井駅延伸に向け、グループの貸切バス受注の営業強化を引き続き実施するとともに、福井・あわらエリアへの二次交通機関の利便性向上のため、平成29年4月にJR芦原温泉駅から永平寺・丸岡城直行バスの運行を開始しました。また、JR福井駅西口広場バスターミナルからの100円運賃区間の利用を促進するため、近隣の学校・企業への営業活動を実施しました。

なお、京福バス(株)・京都バス(株)両社では、平成29年5月と6月にそれぞれ中部・近畿運輸局による運輸安全マネジメント評価を受け、評価の結果を安全管理体制のさらなる向上のための施策に活用しています。

以上の結果、運輸業の営業収益は、平成29年3月の京都バスタクシー(株)の解散もあり、1,941百万円(前年同期比78百万円、3.9%減)となり、営業利益は166百万円(前年同期比6百万円、3.5%減)となりました。

② 不動産業

不動産賃貸事業におきましては、平成29年3月から営業を開始しました「ランフォート西院」では、満室でスタートを切ることができ、入居者に安心していただける良質な物件管理を進めています。また、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」では、好天に恵まれたことや修学旅行団体の増加等により、好調に推移しました。さらに、ゴールデンウィーク期間中には、「こどもの日キャンペーン」として抽選会等を開催するなど、同スクエア内の各テナントと連携した集客活動に取り組みました。

不動産事業での「沿線深耕」の推進として、嵐電沿線の定住人口、特に「子育て世代」の増加を目指した取組を進めています。これは、沿線の不動産業者、不動産鑑定士ほか専門家と連携したプロジェクトチームを立ち上げ、沿線の「空き家」の再利用を図るものです。

「BOAT RACE(ボートレース) 三国」では、人気のあるグレードの高いレースを開催するとともに、外向発売所「ディアボート三国」の施設を利用し、当施設で他ボートレース場で開催されるレースの舟券購入ができる機会を増やすなど、収入は好調裡に推移しました。さらに、インターネットの利用が拡大するなか、スマートフォンアプリを利用したレース情報の発信など、会員向けの情報サイトを充実することで利用拡大に取り組みました。

以上の結果、不動産業の営業収益は704百万円(前年同期比85百万円、13.7%増)となり、営業利益は181百万円(前年同期比27百万円、18.2%増)となりました。

③ レジャー・サービス業

飲食・物販業におきましては、「八幡家（やわたや）」、「毘福庵（きふくあん）金閣寺みち店」の各店舗では、立地環境に応じた営業・宣伝活動を促進するとともに、季節やご利用のお客様の傾向・嗜好等を踏まえたメニューを提供しました。また、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」では、夏季恒例の「RANDEN EKI-BEER 2017」の開催をはじめ、「RANDENバル」では、人気漫画「銀魂」のイベントが好評を博し、イベントとコラボしたオリジナルメニューやグッズの提供等により、多くのお客様にご来店いただきました。

三国観光ホテルでは、インターネットを積極的に利用した商品販売に取り組むなど、宿泊プランの増加に努めたほか、好評をいただいている音楽イベントを継続して開催するなど、近隣のお客様への営業活動にも引き続き取り組みました。

越前松島水族館では、ゴールデンウィーク期間中には、夜の水族館を楽しむ特別企画の実施や「ウミホテルの発光鑑賞会」の開催をはじめ、「コツメカワウソの赤ちゃん」の公開など、当館のオリジナルイベントを開催しました。しかしながら、平成29年1月の「中国料理 吉珍樓」の出店契約が終了したことに加え、ホテルや水族館へのお客様のご来場が天候等の影響で前年と比べ減少した結果、レジャー・サービス業の営業収益は373百万円（前年同期比63百万円、14.6%減）となり、営業損失は19百万円（前年同期は17百万円の営業利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産は、受取手形及び売掛金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ329百万円減少し、18,538百万円となりました。負債は、未払金の支払などにより、前連結会計年度末に比べ545百万円減少し、11,976百万円となりました。純資産は、期末配当を実施した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ215百万円増加し、6,561百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年4月28日の「平成29年3月期決算短信」で公表いたしました第2四半期(累計)および通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	944	1,258
受取手形及び売掛金	1,411	957
販売土地及び建物	16	6
商品及び製品	23	24
仕掛品	0	8
原材料及び貯蔵品	56	46
前払費用	38	54
繰延税金資産	114	63
その他	499	439
貸倒引当金	△5	△4
流動資産合計	3,100	2,855
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,119	9,013
機械装置及び運搬具(純額)	1,333	1,274
土地	3,461	3,461
リース資産(純額)	708	681
建設仮勘定	33	118
その他(純額)	375	348
有形固定資産合計	15,032	14,897
無形固定資産		
ソフトウェア仮勘定	46	—
その他	130	168
無形固定資産合計	177	168
投資その他の資産		
投資有価証券	261	303
その他	300	318
貸倒引当金	△7	△7
投資その他の資産合計	555	614
固定資産合計	15,764	15,680
繰延資産		
社債発行費	2	2
繰延資産合計	2	2
資産合計	18,867	18,538

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	56	51
短期借入金	3,498	3,381
1年内償還予定の社債	45	45
リース債務	172	163
未払金	1,144	361
未払法人税等	213	65
未払消費税等	82	140
賞与引当金	229	93
その他	460	759
流動負債合計	5,904	5,064
固定負債		
社債	111	111
長期借入金	4,167	4,494
リース債務	605	582
長期未払金	487	465
繰延税金負債	640	645
役員退職慰労引当金	57	57
退職給付に係る負債	250	252
その他	296	302
固定負債合計	6,617	6,912
負債合計	12,521	11,976
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	284	284
利益剰余金	4,400	4,573
自己株式	△16	△16
株主資本合計	5,667	5,841
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	65	94
その他の包括利益累計額合計	65	94
非支配株主持分	612	626
純資産合計	6,345	6,561
負債純資産合計	18,867	18,538

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
営業収益	2,976	2,915
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	2,604	2,558
販売費及び一般管理費	28	27
営業費合計	2,632	2,586
営業利益	344	329
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	4	5
雑収入	5	7
営業外収益合計	9	12
営業外費用		
支払利息	13	12
社債発行費償却	0	0
雑支出	1	7
営業外費用合計	14	20
経常利益	339	322
特別利益		
固定資産売却益	24	8
補助金収入	—	5
特別利益合計	24	13
特別損失		
固定資産除却損	9	—
減損損失	4	—
特別損失合計	13	—
税金等調整前四半期純利益	350	335
法人税、住民税及び事業税	78	61
法人税等調整額	30	42
法人税等合計	109	104
四半期純利益	240	230
非支配株主に帰属する四半期純利益	21	18
親会社株主に帰属する四半期純利益	218	212

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
四半期純利益	240	230
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8	29
その他の包括利益合計	△8	29
四半期包括利益	231	260
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	210	241
非支配株主に係る四半期包括利益	21	18

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)
報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	2,014	572	389	2,976	—	2,976
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	4	46	46	98	△98	—
計	2,019	619	436	3,075	△98	2,976
セグメント利益	172	153	17	343	0	344

(注) 1 セグメント利益の調整額0百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)
報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	1,936	659	320	2,915	—	2,915
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	4	45	52	102	△102	—
計	1,941	704	373	3,018	△102	2,915
セグメント利益又は損失(△)	166	181	△19	328	0	329

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額0百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。